

2013年度計画

下記日程には一部予定を含みます。

- 3月** 3月7日(木):2013年度事業計画説明会開催(企業・団体向け)
大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会の事業計画説明
- 4月** 上旬:受入依頼状等を企業・団体に発送
インターンシップ研修生受入の可否及び
インターンシップ受入プログラム合同説明会参加の有無について照会
- 5月** 5月7日(火):受入可否・合同説明会参加可否回答締切
上記送付書類(アンケート等)の回答締め切り
- 6月** 6月1日(土):合同説明会開催(9:00-17:00)
6月26日(水):各大学から企業・団体へインターンシップ研修申込書発送
- 7月** 7月1日(月)~11日(木):企業・団体の学生面接
学生の研修希望先での面接
- 8-9月** インターンシップ研修
- 9月** 上旬:研修先企業・団体にアンケート送付
- 11月** 上旬:拡大懇談会開催

各大学インターンシップ連絡先

愛媛大学	松山大学	松山東雲女子大学 松山東雲短期大学	聖カタリナ大学
教育学生支援部 就職支援課 (担当/武智)	教務部 教務課 (担当/清水)	学務部 就職進路支援課 (担当/藤田)	学生部 就職課 (担当/新名)
〒790-8577 松山市文京町3番 tel.089.927.9164(直) fax.089.927.9181 www.ehime-u.ac.jp/	〒790-8578 松山市文京町4-2 tel.089.926.7137(直) fax.089.923.8920 www.matsuyama-u.ac.jp/	〒790-8531 松山市桑原3丁目2-1 tel.089.913.2610(直) fax.089.931.6402 www.shinonome.ac.jp/	〒799-2496 松山市北条660 tel.089.993.0731(直) fax.089.993.0717 www.catherine.ac.jp/

編集・発行/大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会

制作/NPO法人えひめ中小企業支援協会

〒791-8057 松山市大可賀2-1-28 アイテムえひめ
tel.089.968.3112 fax.089.968.3107

インターンシップ・プログラム 実施報告書

2012 Internship Program Report

2012年度



大学コンソーシアムえひめ インターンシップ部会

2012年度のインターンシップ研修実施のお礼と来年度の取り組みへの協力をお願い

大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会 2012年度部会長 岡本 隆
(愛媛大学インターンシップ委員会委員長)

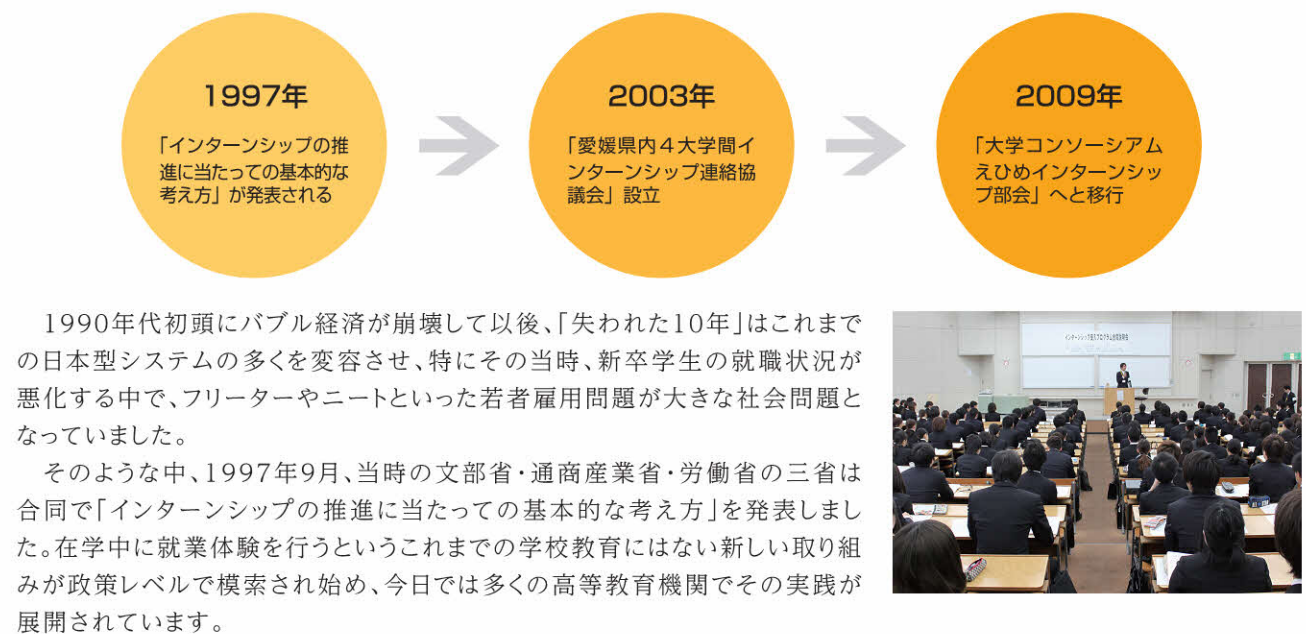
地域の企業・団体の皆様には、日頃から大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会の活動に多大なご支援を賜りありがとうございます。特に学生の研修受入にはご理解・ご協力を頂き、この場をお借りして心から感謝申し上げます。本年度は愛媛大学・松山大学・松山東雲女子大学・松山東雲短期大学の4大学から総数290名以上の学生を受入れていただき、インターンシップ研修を無事に終えることが出来ました。重ねてお礼申し上げます。

インターンシップ部会は当初から主に次の6つの目的を持って活動をしております。すなわち、①県内企業・自治体への意向調査 ②インターンシップの統一スケジュール・ルールの作成 ③企業・自治体と学生とのマッチングの実施 ④地域内インターンシップを希望する学生の選抜・調整 ⑤企業・自治体等との定期的な懇談会の実施 ⑥インターンシップカリキュラムの開発・検討です。この間、皆様のご協力もあり、順調に取組を進めていくことが出来ました。今後も受入先の皆様、および連携大学とより緊密な連携に基づく地域のキャリア教育体制の整備に取り組みたいと考えております。

愛媛大学での調査によりますと、インターンシップ研修に取り組んだ学生は、取り組んでいない学生と比べ、その後の進路・就職で充実した結果を出しています。学生たちのインターンシップに対する率直な感想を見ましても、「働く」ということに対して実感を持つことが出来たと同時に、自分自身を振り返るきっかけになりその後の学生生活に積極的な影響を与えていることを読み取ることが出来ます。

インターンシップ部会には、平成25年度から聖カタリナ大学も加わることで、規模が拡大すると同時に学生の多様性も増すことになります。来年度以降も愛媛のインターンシップをますます充実したものに成長させることができるよう、より一層の質的向上を図っていききたいと思います。今後とも、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願いします。

これまでの経緯



1990年代初頭にバブル経済が崩壊して以後、「失われた10年」はこれまでの日本型システムの多くを変容させ、特にその当時、新卒学生の就職状況が悪化する中で、フリーターやニートといった若者雇用問題が大きな社会問題となっていました。

そのような中、1997年9月、当時の文部省・通商産業省・労働省の三省は合同で「インターンシップの推進に当たっての基本的な考え方」を発表しました。在学中に就業体験を行うというこれまでの学校教育にはない新しい取り組みが政策レベルで模索され始め、今日では多くの高等教育機関でその実践が展開されています。

愛媛県内の高等教育機関でも独自にインターンシップを教育課程に取り入れてきましたが、無差別な受入要請が地域におけるマッチング秩序を混乱させるという事態が発生しました。2003年、受入先等の要望もあり、愛媛県中小企業家同友会の協力を得て、県内4大学(愛媛大学・松山大学・松山東雲女子大学・松山東雲短期大学)が中心となり地域における大学生のインターンシップを統一的に運営するため、「愛媛県内4大学間インターンシップ連絡協議会」が設立されました。

2009年には、愛媛県内で大学コンソーシアムができ、「愛媛県内4大学間インターンシップ連絡協議会」は「大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会」へと移行しましたが、設立当初からの目的、また地域の各組織との連携関係を変えることなく、事業を展開しています。

愛媛大学

愛媛大学は「豊かな創造性、人間性、社会性を備え、次代を担う自覚と誇りをもつ優れた人材を社会に送り出すことを最大の使命とする」ことを大学憲章で謳い、キャリア教育を単なる就職支援ではなく、人生の新しい段階(社会)へと移行する若者の成長を支える教育として捉え、教育体制を敷いてきました。

しかし、本学独自の調査から、大学の学修で身に付いているはずの能力が産業界に十分に伝わっていないことが懸念されています。そこで、大学での学びを可視化し、社会に飛び立つ学生と企業が共有していくためのキャリア・ポートフォリオを教育課程の中に導入していくことになりました。

キャリア・ポートフォリオの作成は、共通教育科目「社会力入門」(平成25年度より1年次後学期全学必修科目)を通じて全学生に必修課題となります。1年次後学期にポートフォリオ作成方法について学んだ後は、インターンシップなどを通して、「学びの可視化」を社会の中で学生自身が行い、社会で生き抜く能力を形成していくことになります。

これまで愛媛大学には全学部に通じるキャリア教育科目は存在しませんでした。「社会力入門」の開講を通じて、1人でも多くの学生をインターンシップへと誘うことを目的としております。また、インターンシップは社会へと移行する学生の成長を支える中心的教育であり続けます。より明確な目的を持った学生を送り出せるよう全学で取り組みを始めました。変わらぬご協力をよろしくお願い申し上げます。

松山大学

松山大学におけるインターンシップの取り組みは、経営学部において1995年に学生自らが研修受け入れ先と受け入れ交渉を行い、職場研修を行う方式により開始されました。また、経済学部では1998年に愛媛県中小企業家同友会と西四国観光ネットワーク「るーるばけっと」の会員企業を中心とした研修受け入れ先に学生を派遣し職場研修を行う方式により開始され、その後制度が統合され、2002年度からは文系学部すべてで実施される全学部共通のプログラムになりました。

さらに、これまでは「共通教育科目」の1つであったインターンシップ関係科目が、2012年度からは独立した「キャリア教育科目」として位置づけられ、大学の教育活動の中で、ますます重要なものとなっています。

本学のプログラムは、前期に事前講義として「インターンシップ活用I」(全15回の講義)、夏季休暇期間を利用した「インターンシップ研修」(実働30時間以上、もしくは実働60時間以上の実務研修)、さらに後期に事後講義として「インターンシップ活用II」(全15回の講義)という形で実施しております。

松山大学では、2012年度、130名の学生が「インターンシップ研修」を行いました。毎年、研修を受けた学生の代表による研修報告会を開催するとともに、各受け入れ先の研修報告を冊子にまとめ、その成果を公開しています。このような教育活動が可能となっているのも、ひとえに研修生を受け入れてくださる事業所・団体があつたればこそであります。インターンシップにご協力いただきました皆さまに心より感謝申し上げますとともに、今後の変わらぬご支援をお願いいたします。

松山東雲女子大学・松山東雲短期大学

本学では、2003年度より女子大学および短期大学でキャリアサポートセンターを中心にインターンシップ研修を進めて参りました。また、2008年度からはキャリアサポートセンターと就職進路課を一本化し、就職進路支援課としてインターンシップ研修や低学年からのキャリア教育、就職活動に至るまで一貫して支援を行う態勢を整えました。

低学年のキャリア教育としては、大学の正規授業の中で、職業について考える「キャリア論」や「ビジネスコミュニケーション」などの科目を配置し、研修の事前教育として「マナー研修」なども実施しております。

一方、短期大学ではカリキュラム全体を通して職業に直結する教育を展開しております。中でも秘書科は、1年生で「プレ・ビジネスインターンシップ」という授業で短期間のインターンシップを経験し、2年生では就職活動とともに「インターンシップ研修」に取り組みます。これらの経験は学生にとって“社会にふれる”貴重な体験であり、そのことよっての“気づき”は大きな力となります。

特に研修後の報告会では、すべての学生が受入企業様の温かさや社会人としての責任の重さを実感したことなど自分自身の成長を報告してくれます。研修受入企業・団体の皆様には、学生の実態を見て頂くだけではなく、“働くことの意味・やりがい”などについてご指導賜りたく、今後とも変わらぬご支援をお願いいたします。

聖カタリナ大学

聖カタリナ大学は、2013年度よりコンソーシアムえひめ主催のインターンシップ・プログラムに参加させていただくことになりました。本学では、2011年4月に新たに人間社会学科を設置しました。本プログラムに参加する学生たちが学ぶ人間社会学科では、社会学と心理学を中心としたカリキュラムを通じてコミュニケーション能力の向上と企業社会で通用する人材の育成に向けて、日々指導を行っています。

大学のカリキュラムにおいては、低学年のキャリア教育として1年次には読み・書き・プレゼンテーションなどの基本的なスキルの習熟と、社会人としての知見を深めるための授業である「基礎演習」を受講し、2年次では大学卒業後の自己イメージや職業観を構築し、3年次以降の就職活動に向けた準備を行う「キャリアデザイン」の授業を受講します。そして3年次の前期では、本インターンシップ・プログラムに参加するのに先立ち、インターンシップとは何か、志望する職種・業種に関する研究や履歴書作成・説明会参加・面接の受け方などの実践的なトレーニングを行う「インターンシップ」という授業を通じて、インターン先でお世話になるための準備を進めます。

参加初年度ということで不慣れな点も多いことと存じますが、受入企業・団体の皆様におかれましては参加学生へのご指導のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

2012年度インターンシップ研修報告

今年度も県内4大学に在籍するたくさんの学生が参加し、インターンシップ研修が行われました。
受け入れ企業向けの事業計画説明会を始め、年間を通じた研修事業の状況をご報告いたします。

年間スケジュール

事業計画説明会

事業開始の恒例行事として、受け入れを予定している企業や団体等に向け、プログラムの説明会を開催しました。



合同説明会

愛媛大学、松山大学、松山東雲女子大学、松山東雲短期大学に在籍する300名余りの学生が参加。受け入れを表明し、説明会に参加した企業や団体のプレゼンテーションを受けた後、思い思いに個別面談ブースをまわって研修内容の説明などを受け、熱心に質問をしていました。



拡大懇談会

その年度のインターンシップ事業を総括するため、毎年この時期に開催。今年度は研修生を受け入れていただいた19企業・団体のご担当者にお集まりいただき、より活発な意見交換をするため、ワールドカフェ形式で実施。それぞれ、忌憚のないご意見をいただき、来年度の事業をさらに充実させるよい機会となりました。



3/8
木

インターンシップ受入プログラム合同説明会への参加の有無とインターンシップ研修生受入プログラム内容に関するアンケート送付

4月
下旬

アンケート等の
締め切り

5/7
月

6/2
土

各大学から学生の
研修申込書を研修
希望先へ送付

6/27
水

研修希望先での
面接

7月
下旬

8月～
9月

インターンシップ研修生
受入企業へのアンケート
(回収数72/配付数86)

9/14
金

11/28
水

インターンシップ研修期間 ※前期試験終了後から9月授業開始まで(4大学合計291名が67の企業・団体で研修を受ける)

参加者の声

愛媛大学 理学部 生物学科 3年 笹部 祥子
研修先：有限会社アイン

インターンシップ研修で働く先輩方を間近で見ることによって、ただの接客ではなく、「おもてなし」という感覚で、質の高い接客を学ぶことができ、働くということをイメージできました。今は、具体的に就きたい職業までは考えられていませんが、接客で、お客様の笑顔を見るとやりがいを感じる事ができて、働きたいという意欲も湧きました。何十年も働いておられる先輩たちが、「技術にホコリをかぶせてはいけない」とおっしゃり、今でも美容業を常に勉強しているという姿にとっても感動したので、私も向上心を忘れず、仕事をしたいという思いが強くなりました。

また、働くという上で、素直さや真面目さ、積極性の重要さも感じました。働くという上で、信頼されるには、自分が動いて、示さないといけないという厳しさや、逆に、動けば信頼してもらえるというやりがいも感じました。研修でお世話になりましたアインの皆様、本当にありがとうございました。

参加者の声

愛媛大学 工学部 機能材料工学科 3年 吉田 昂平
研修先：西条市役所

今回のインターンシップで、僕は「うちぬき創造塾」というプロジェクトのリーダーを務めさせていただきました。その中で、インターンシップの担当職員の方からのアドバイスをいただき、リーダーとしてチームを機能させるための「技術的なこと」だけでなく、リーダーとしての自身の振る舞いなどの「精神的なこと」など、多くのことを学ぶことができました。また、プロジェクトを終え、その達成感をメンバーと共有しチームで働くことの楽しさを感じることもできました。さらに、プロジェクトを通して今後の大学生活の過ごし方を考えることもでき、自分をより高めることを創造する機会となりました。このように体験的に学ぶ機会は普通に大学生活を送るだけでは経験できるものではないと痛感しました。今回のインターンシップで得た経験を今後の大学生活、さらに社会人となってからも十分に活かしていきます。このような機会を与えてくださった西条市役所の皆様、本当にありがとうございました。

参加者の声

松山大学 経済学部 経済学科 2年 松本 栞
研修先：東京海上日動火災保険株式会社

私は今回の研修で、実際に社会人の方々の働く様子を体感し、自分にとっての「働くこと」への意識が大きく変化したように思います。研修前は単純に生活のために働くのだという意識があったのですが、研修先で営業に同行させていただいたとき、お客様の「ありがとう」という言葉に、感謝されるってこういうことなのか、と感じ、社内で一緒に活動させていただいたことで、仕事をする上で大切なのは「やりがい」や「自己成長力」なのだと感じました。

保険商品という無形の商品を扱うなかで、どのようにして信用を得ているのか、どのように顧客を得ているのか、社員の方々の真剣な姿に、「働くこと」「社会人になること」とは、自分で考え主体的に行動し、何がしたいかという目標、自分の価値観を尊重したうえで、自分自身の中で成長していけるような人間になることなのではないか、と感じました。このような学びの場を提供してくださった先生方、研修先の皆様に心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

参加者の声

松山東雲女子大学 人文科学部 3年 永芳 友梨
研修先：認定子ども園 小羊園

今回の研修では、今までに経験したことのないことをたくさんやらせて頂き、とても良い経験ができました。特に楽しみ会を企画・実行したことは私にとって挑戦であり、今後に繋がる経験となりました。また、私が子ども達に提供した遊びの良いところ、改善したらいいところを客観的に評価して下さったことは今後の自信につながりました。この経験をバネにさらに成長していきたいと考えています。

今回の研修を通して、働くことは自分のやりがいを仕事の中に見いだすことで成り立つと感じました。また、仕事の中で「学ぶ姿勢」が大切であることもわかりました。職業に関わらず、日々変化していく社会に対応するために、常に新しいことを身につけようとしている姿勢が社会人として必要なことであることも実感しました。社会人は、人のために働く人であることを忘れずに、ベストな状態で働ける環境を自分自身が切り開いていくことも大切さだと感じています。



研修生受け入れ企業担当者アンケート集計結果から

今後のインターンシッププログラムの開発に資するため、11月に開催した拡大懇談会において、参加企業・団体の方々に「自社で働く上で必要な能力」の重要度についてアンケート調査を行い、重要でない=1～非常に重要=5の選択肢で回答をお願いしました。

その結果を次のような表にまとめました。どの能力も大卒者としては不可欠な能力ではありますが、「課題を発見する力」「前に踏み出す力」「聴く力」「チームで働く力」「伝える力」は平均点が4.5を超えており、多くの職場で相対的に重要視されていることがわかります。

多くの職場では専門的な技術や知識よりも、就業力ともいえる汎用性のある能力の重要性がわかります。インターンシップは、大学生の中で特に職場においてこのような汎用的能力を高めることのできる貴重な機会です。個々のプログラムの作成においても、産業界全体のニーズを勘案して実施して頂くことで、学生はさらなる成長を遂げることと思います。

一方、「語学力」「諸科学の基礎的知識」「科学技術的スキル」は相対的に重要でないという結果になっています。大学教育が得意とするこれらの能力育成については、今後はより産業界のニーズに耳を傾けて改革を行っていくことが必要のように感じます。

順位	能力	平均	最小	最大
1	課題を発見する力	4.714	4	5
2	前に踏み出す力	4.667	2	5
2	聴く力	4.667	3	5
2	チームで働く力	4.667	3	5
5	伝える力	4.619	4	5
6	自ら必要な知識や技術を学ぶ力	4.524	3	5
6	計画力	4.524	3	5
8	知識・情報の運用力	4.476	3	5
9	論理的思考力	4.429	3	5
10	社会的ルールの尊重	4.333	3	5
11	表現する力	4.300	3	5
12	自分に向き合う力	4.286	2	5
12	自己管理力	4.286	3	5
14	健康管理力	4.190	3	5
15	リーダーシップ	4.000	2	5
16	読み・書き・計算基礎力	3.667	2	5
17	異文化を理解する力	3.571	1	5
18	人文・社会・自然科学の包括的理解	3.524	1	5
19	コンピュータ・スキル	3.476	2	5
20	科学的思考力	3.429	2	5
21	語学力	3.143	1	5
22	諸科学の基礎的知識	3.000	1	5
23	科学技術的スキル	2.857	1	5



受入企業・団体一覧（順不同）

1	有限会社アイン	35	ダイキ株式会社
2	あけはまシーサイドサンパーク株式会社	36	株式会社ダイキアक्स
3	特定非営利活動法人アジア・フィルム・ネットワーク	37	太陽石油株式会社
4	アビリティセンター株式会社	38	株式会社田窪工業所
5	今治市役所	39	株式会社テレビ愛媛
6	特定非営利活動法人いよココロザシ大学	40	東京海上日動火災保険株式会社
7	株式会社伊予鉄高島屋	41	東京第一ホテル松山 八紘開発株式会社
8	伊予鉄道株式会社	42	社会福祉法人 道真会
9	株式会社内子フレッシュパークからり	43	トヨタL&F西四国株式会社
10	宇和島市役所	44	トヨタカローラ愛媛株式会社
11	高齢者総合福祉施設 梅本の里	45	南海放送株式会社
12	愛媛県	46	オフィスnaturel(ナチュレ)
13	愛媛県司法書士会	47	NPO法人にいはま市民企画ノボック
14	財団法人愛媛県動物園協会(とべ動物園)	48	新居浜市役所
15	株式会社愛媛CATV	49	ニンジニアネットワーク株式会社
16	国立大学法人愛媛大学	50	有限会社能力開発システム研究所
17	愛媛トヨタ自動車株式会社	51	濱田農園
18	えひめ中央農業協同組合	52	NPO法人俳句甲子園実行委員会
19	株式会社エフエム愛媛	53	はるやま商事株式会社
20	有限会社遠藤青汁	54	株式会社ヒロヤ
21	株式会社共立メンテナンス(森の国ホテル)	55	株式会社フジ
22	霧の森(株式会社やまびこ)	56	二神塾
23	こうち人づくり広域連合	57	株式会社ホテル八千代
24	NPO法人こころ塾	58	財団法人松山市男女共同参画推進財団
25	認定こども園 小羊園	59	松山市役所
26	株式会社コモテック	60	松山赤十字病院
27	西条市役所	61	松山総合開発株式会社 松山全日空ホテル
28	佐伯公認会計士事務所	62	学校法人松山大学
29	佐川印刷株式会社	63	松山ヤクルト販売株式会社
30	株式会社サニグリーン四国	64	松山地方法務局
31	四季彩農園	65	一般社団法人 まほろば
32	ジョブカフェ愛work(愛媛県若年者就職支援センター)	66	株式会社地域法人無茶々園
33	生活協同組合コープえひめ	67	合資会社ワークショップco. 松山
34	瀬戸内緑地株式会社		